

【別紙①】

第6学年 社会科 学習指導略案

- 1 単 元 名 国力の充実をめざす日本と国際社会
- 2 資 料 名 「私の水平社宣言をつくろう」(ほほえみ)
- 3 ね ら い 全国水平社創立に至った当時の社会の一側面を資料から読み取り、その背景にあった人々の切実な願いや思いを知ることができる。
水平社宣言に込められた「すべての人が尊重される社会への願い」を自分の生活に結び付けて考え、差別のない社会づくりに向けて、よりよい行動を考えようとする態度を育てる。
- 4 人権教育の内容 差別と人権問題についての学習 2—(2)—ア
- 5 本時の展開

学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点
1 水平社宣言が出されたときの社会情勢を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 宣言が出されたころ、どんな社会のようすを確認してみよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ お米の値段が高かった。(米騒動が起こる) ・ 働く女性が増えた ・ 権利を訴える運動が多くあった ・ 労働運動が起こった。 ・ 女性運動が起こった。 ・ 差別解消運動が起こった。 ○ 「水平」とはどういう意味だろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 真っ直ぐ ・ 平等 ・ 平ら 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大正時代の人々の暮らしや社会の変化、様々な社会運動について社会科の学習を想起させる。 ・ 主語を特定せず、「社会の中で」「当時のしくみの中で」などの表現を使用する。 ・ 差別に苦しめられてきた人々が差別解消のための運動として全国水平社を創立したことや、創立時、宣言文が読みあげられたことを伝える。
2 水平社宣言(現代語訳)を範読し、心に残った言葉に印を付けて理由を記述する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ どの言葉が心に残った? ○ その言葉を選んだ理由は? <ul style="list-style-type: none"> ・ 苦しい状況でも希望をもって生きてきたという気持ちが伝わった。 ・ 平等でありたい、という願いを感じた。 ・ 未来に向かって生きようとする強さを感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宣言文の言葉に直接焦点を当てることで、児童が余計な不安を抱かないようにする。 ・ 児童の選んだ言葉を否定せず、どの選択にも価値があると伝える。 ・ 児童個々にさまざまな背景や経験がある可能性を前提とし、心理的安全性が保たれているかを常に確認しながら進める。
3 ワークシートをもとに、ペア(グループ)で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちと、選んだ言葉や理由を交流してみよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分と違う言葉を選んでいて初めて気が付いてことがあった ・ 同じ言葉でも理由が違って勉強になる。 ・ 願いを大事にしながら生きてきたことがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が安心して話せるよう、否定のない雰囲気づくりを徹底する。 ・ ペア(グループ)交流の目的は「正解探し」ではなく「考えを比べ、広げること」であると伝える。 ・ 個人の痛みを想起させる指導は避ける。
4 振り返りを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今日の学習で、感じたことや考えたこと、これからの生活で意識したいこと書こう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ わけへだてなく友達と話をする。 ・ いやな言い方をしないようにしたい。 ・ 差別をしてはいけないことを改めて感じる時間だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習を振り返り、気付いたことやこれから大切にしたいことなどについて振り返りを書かせることによって差別のない社会を実現していこうとする意欲を高めさせる。